

令和7年度

富田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な学習内容の確実な定着のため、授業や朝の活動、家庭学習を工夫する。
- ②ICT等を効果的に活用し、自ら考え、学び合い、高め合えるような発問や授業展開を工夫する。

校長

田村 康治

学力向上推進員

三木 真友美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会をとらえ、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識や技能の習得に関して、8割程度の児童が「よく理解できている」と実感している。 ○与えられた課題にもまじめに取り組むことができる児童が多い。 ●全体的に語彙が少ない。 ●既習内容や生活経験をもとに知っていることなどを関連付け、新たな知識を習得することに課題がある。	・豊かな語彙力を身に付けることで、より深く、正確に物事を理解することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識や知っていることと関連付けられ、他の学習や生活の場面で活用することができる。	・新聞や百人一首を活用したり、朝の読書の時間を確保したりすることで、語彙の充実を図る。 ・教材教具や板書、発問などを工夫した「わかる授業」にするために、教員が相互に授業参観を行う。 ・ICTを効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、相手に分かりやすく伝えようという意識をもって表現したりしようとする児童が増えている。 ●読解力に課題があるため、必要な情報等を取り入れたり自分の考えをまとめたりすることが苦手である。	・相手の伝えたいことや文章の内容を正しく理解し、考えを深めたり、解決方法を考えたりすることができる。 ・自分の考えをしっかりともち、根拠を明らかにして書いたり伝え合ったりすることができる。	・読み取ったものをICTや思考ツール等を活用することで、思考を可視化し、整理することで、より深く理解できるようにする。 ・要約したり説明したりする活動を取り入れるなど、言語活動を充実させる。 ・児童の発言や発表の内容に応じて「なぜ」「どうして」などの発問を行い、考えを深めさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、まじめに取り組もうとする児童が多い。 ○友達と協力したり、活動に対して意欲的に取り組んだりすることができる。 ●難しい課題にであったときに、諦めてしまったり、粘り強く取り組むことに課題がある。 ●活動と学びが繋がっていないことに課題がある。	・自ら課題を見つけ、他者との対話や協働的な学びを通して、自己の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組んだり、自己の学習を振り返って次につなげたりすることができる。	・児童が新たな学びに興味や関心をもって取り組めるように、教材や授業展開などを工夫する。 ・家庭学習の手引きや自主学習の手引きなどをもとに、家庭学習を支援し、家庭との連携を図る。			